

11月17日 第8日目

本日は一週間を経て初めての本格的な雨降りの日となり、予想最高気温も 23℃止まり。とはいえ盛岡の2倍ほどもある。

3日ぶりに会うガイドの黄さんと、8時にドミトリーを出発。台北市内の貸会議室にて、本日から始まるフィールドワークプログラムの顔合わせを行う。日本人・台湾人・フランス人それぞれ1人、合わせて3名の方がコーディネーターに、そして台北市内の大学に通う3人の留学生の方々が、ツアーリーダーとして生徒のフィールドワークに同行することになる。

3人の留学生は出身国（アメリカ・インド・ベトナム）も所属する大学もバラバラ。台湾だけでなく世界各地の国の状況もあわせて知れるように、との配慮のようである。

生徒は4人ずつ3つのグループに分かれ、それぞれに一人留学生がツアーリーダーとして加わる。フィールドワークを行うに当たり、よりしっかりとチームビルディングを行うため、終日会議室において、英語によるグループワークを行った。

まず午前中は前半の研修の振り返りを兼ねたアイスブレイクを経て、3人のグループリーダーそれぞれに対し、自分たちの問題意識とフィールドワークの計画についてプレゼンを行う。予定していなかった突然のプレゼンということで少々戸惑ったものの、何とかこなすことができたのは昨日までのプレゼン練習の成果によるものであろう。

その後コーディネーターより、台湾に関する基礎知識のレクチャー。生徒たちが掲げたテーマに関連する内容が網羅されており、配慮いただいていることが感じられた。

ここで昼食時間になり、生徒たちはグループ毎に、リーダーとともに昼食場所を求め周辺を散策。報告者が同行した班は2・3軒候補を巡った後、パイコー麵が看板の中華料理屋に。日本ではもっぱらパイコー麵が有名だが、台湾ではピビンバみたいなご飯の上にパイコー（豚のから揚げ）を乗せて食べる、パイコー飯なるものもある。

昼食を終えて戻ってくると、いよいよ本題であるフィールドワークの計画へ。改めて解決すべき課題を確認し、その解決へ向けた仮説を提示、その仮説を検証するために台湾で何をすべきかを、これまでの一週間の経験を踏まえて再構成した。

そしてそれに従って、グループ毎に3日間のフィールドワークのプランを作成、グループ毎に発表し、全体で共有して本日の全行程が終了となった。

昨日の講義にあったとおり、形・予定にこだわる日本人に対して、それにとらわれない台湾の人々。突然の予定変更や、出身国特有のクセのある英語の聞き取りに悪戦苦闘しながらも、自分たちが行いたいことを実現していくことによって、生徒たちはグローバルな世界の中で生き抜くためのタフさを獲得していくことと期待したい。

帰りは台北の街中で解散し、思い思いに散策しながら、郊外にある政治大学のドミトリーへ。21時の点呼時には皆しっかりと集合していた。

現時点での FW 計画のプレゼン



台湾人はマツキヨ大好きとのこ



パイコー麵・飯のお店にて



2.5 日分の行動計画が完成

